

ウォーカブルなまちづくりの推進に向けた社会実験の実施結果について

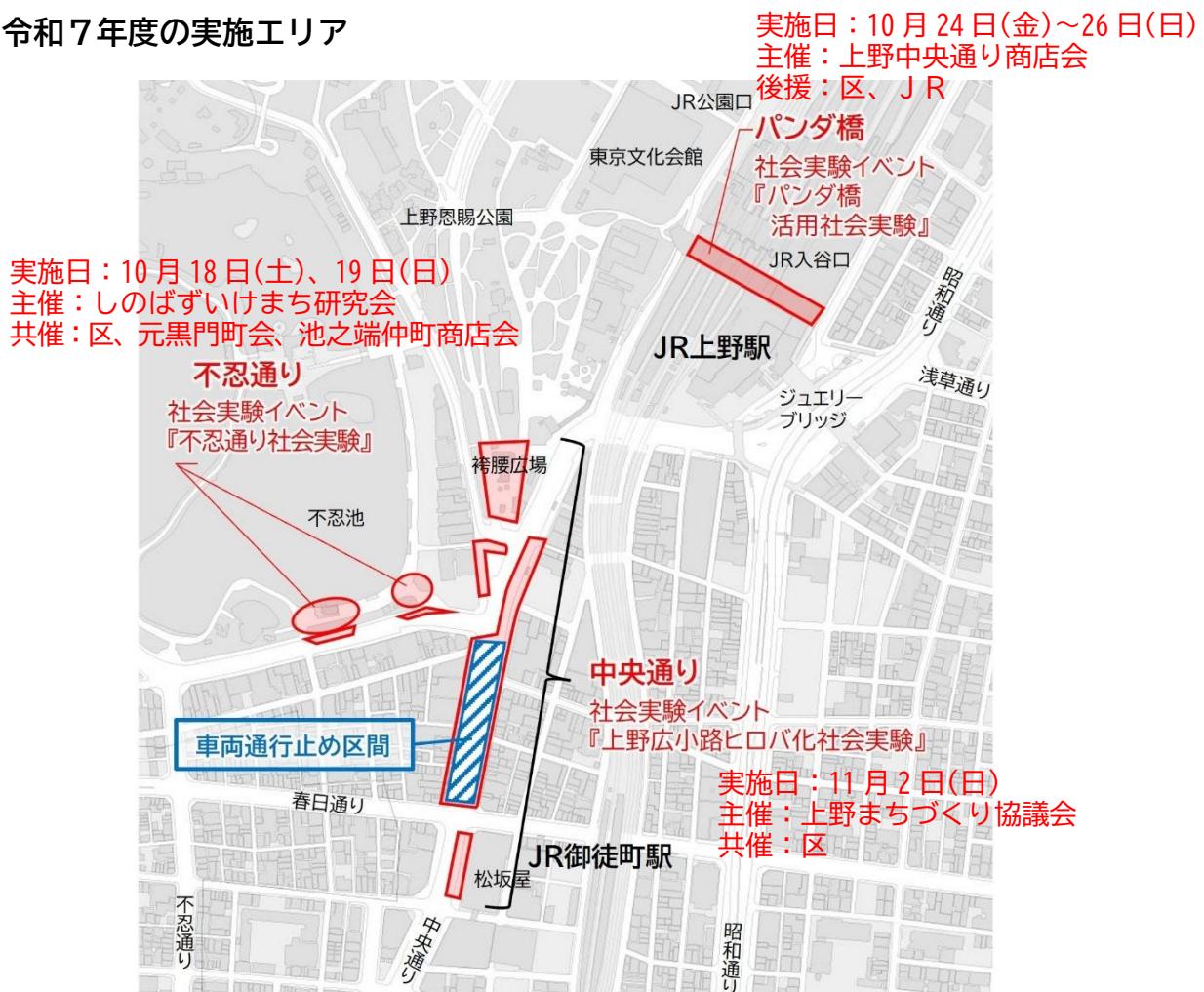
1 背景・目的

区では、上野地区まちづくりビジョンに掲げる「杜とまちを自由に行き交うことができるひと中心の空間活用」の視点を踏まえ、杜とまちを繋ぐ中央通り、パンダ橋、不忍通りについて、ウォーカブルな空間への転換を目指している。

また、地域においては、まちづくり団体や民間事業者といった様々な主体が、道路空間等の活用や検討に主体的に取り組んでいる。

そこで、まちづくりの主体である地域の方々と共に、不忍通り、パンダ橋、中央通りを活用する社会実験を実施することにより、ひと中心の空間活用に向けた検討の更なる推進につなげていく。

2 令和7年度の実施工アリア



3 不忍通り社会実験

本社会実験は、不忍池(杜)側とまち側の回遊性向上に向け、不忍通りの将来像等検討の参考とするために実施し、不忍通り等において、ブックカフェやテーブル・椅子等による賑わい・交流や居心地の良い空間の創出のほか、地域の文化・魅力の発信を図ることができた。

(1)日時 令和7年10月18日(土)15~20時、19日(日)10~17時

(2)天候 1日目:曇り、2日目:曇り時々雨

(3)体制 主催:しのばずいけまち研究会 共催:区、元黒門町会、池之端仲町商店会

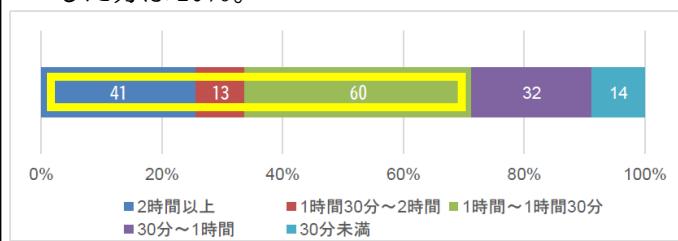
(4)実施状況



(5)アンケート調査結果

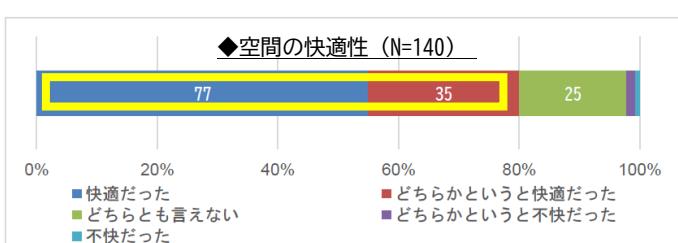
① 来場者の滞在時間(N=160)

- 1時間以上滞在した方は 71%、2時間以上滞在した方は 26%。



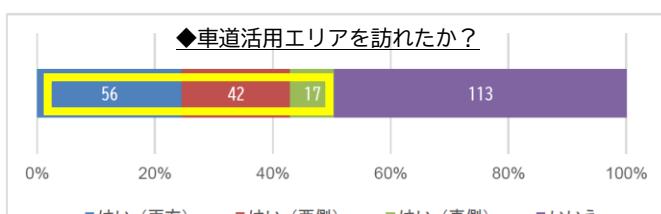
③車道活用エリアの快適性に対する評価

- 空間の快適性や休憩できることについては肯定的な意見が多かった。
- 車両の通行に不安を感じた方は 14%。

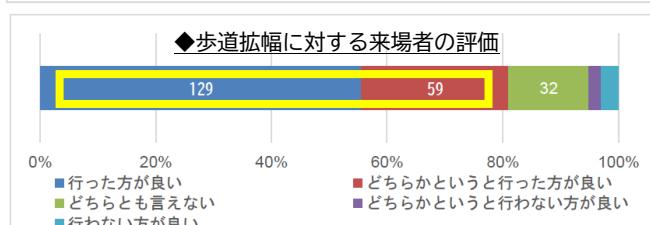
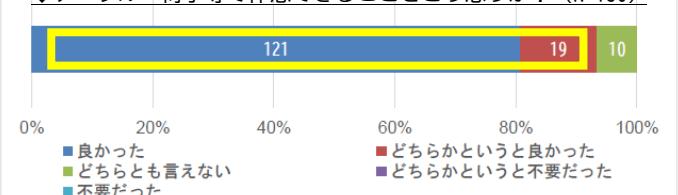


②車道活用エリアのニーズ調査(N=232)

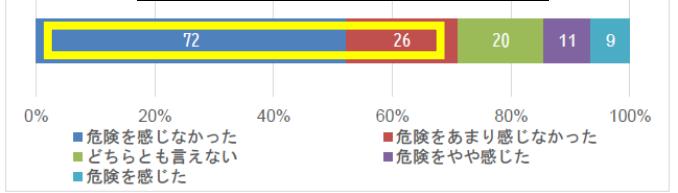
- 車道の活用エリアを訪れていた方は 50%
- 歩道拡幅の取組に肯定的な意見の方は 81%。



◆テーブル・椅子等で休憩できることをどう思うか？(N=150)



◆通行車両に危険を感じたか？(N=138)



4 パンダ橋社会実験

本社会実験は、杜・駅・まちの回遊性向上に向け、パンダ橋の将来像等検討の参考とするために実施し、パンダ橋において、ペット(犬)をテーマとした店舗やワークショップによる賑わい・交流の創出、みどり・テーブル・椅子等による居心地の良い空間の創出を図ることができた。

(1)日時 令和7年10月24日(金)～26日(日)各日11時～17時

(2)天候 全日：雨時々曇り

(3)体制 主催：上野中央通り商店会 後援：区、JR

(4)実施状況



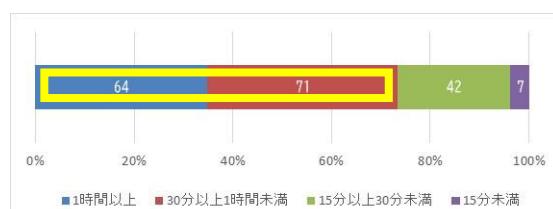
(5)アンケート結果 ※インターネット回答 N=184

①社会実験来場者の居住地とパンダ橋を訪れる頻度

- ・来場者の居住地は区内が30%、区外が70%。
- ・来場者の訪問頻度は、週1回～毎日が17%、初めて～数回程度が41%。

②社会実験来場者のパンダ橋の滞在時間（予定を含む） ※単一選択

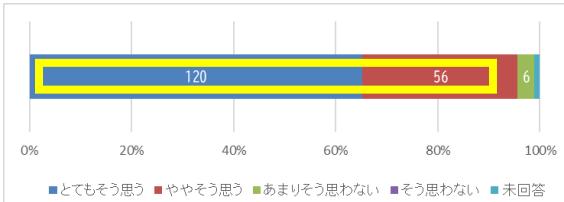
- ・30分以上滞在された方は73%、
- 1時間以上滞在された方は35%。



③本社会実験による上野地区の

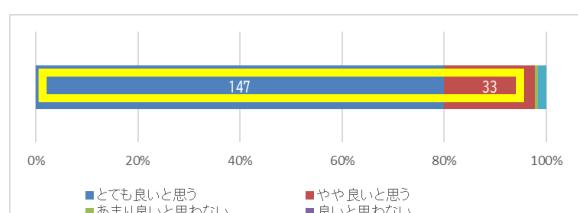
回遊性向上 ※単一選択

- ・本社会実験が回遊性向上に寄与していると思った方は96%。



④本社会実験の印象

- ・本社会実験に肯定的な意見の方は98%。



⑤主な意見

- ・愛犬と一緒に過ごせるイベントがあって嬉しい。定期開催を希望。
- ・雨天の際、傘などでぶつかる事がなくなるよう、屋根をつけてほしい。
- ・とても良い空間だと思う。また、ふらっと立ち寄れる取組を行ってほしい。

5 中央通り社会実験

本社会実験は、杜とまちの回遊性向上に向け、中央通りの将来像等検討の参考とするために実施し、中央通りにおいて、地元の各団体の出店等による地域の魅力発信や賑わい・交流の創出、みどり・テーブル・椅子等による居心地の良い空間の創出ができたほか、地元の多様な主体の参画を図ることができた。

(1)日時 令和7年11月2日(日)11～16時(車道部以外は11～20時)
※車両通行止め時間は9～18時

(2)天候 曇り

(3)体制 主催：上野まちづくり協議会 共催：区

(4)実施状況



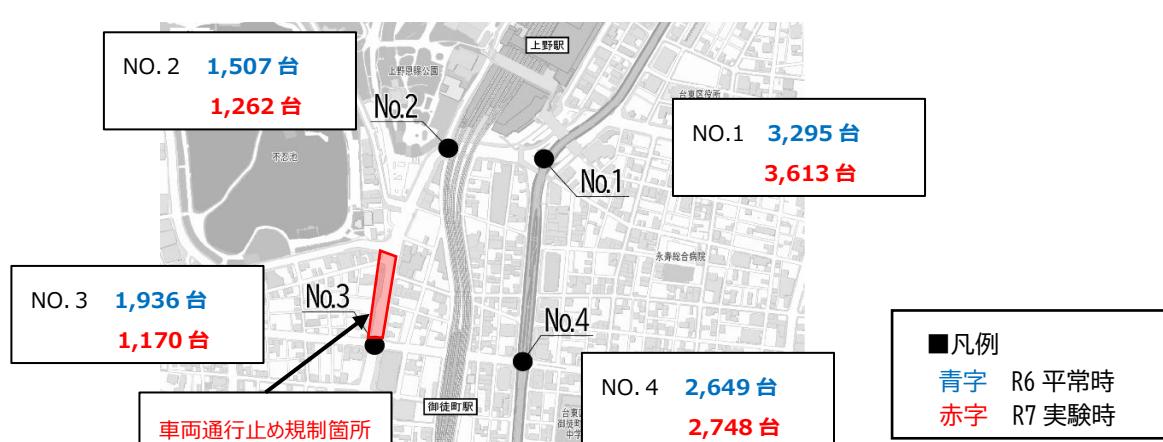
(5)交通量調査 (社会実験当日)

①自動車交通量 (交通規制時間帯におけるピーク時1時間あたりの交差点交通量)

・No.1(上野駅前交差点)とNo.4(台東四丁目交差点)については、昨年平常時よりも交通量が増加しているが、大きな影響は見られなかった。

※首都高のETC専用化工事に伴う入谷入口閉鎖の影響もあり。

・昭和通りから中央通りへ南下する方向については、一部混雑が見受けられたものの、自動車交通による大きな混乱は生じなかった。



②歩行者の回遊状況

- ・袴腰広場から春日通りまで中央通りを軸とした回遊が生まれていた。
- ・社会実験実施時間帯(11～16時)において、車両通行止め区間では、歩道よりも車道を通行する歩行者が多かった。

※車道通行量：約23,400人

歩道通行量：約20,500人(東側：約12,200人、西側：約8,300人)

6 今後の進め方

【不忍通り】

不忍通りについては、令和3年度から、しのばずいけまち研究会が道路空間の再編に向けた検討に取り組んでおり、令和5年度からの社会実験や都による歩行者利便増進道路(通称：ほこみち)の指定により、地域の気運は高まっている。

今後は、社会実験や地域の方々の意見を踏まえ、しのばずいけまち研究会と連携して将来像の具体化に取り組んでいくとともに、東京都の「東京における都市計画道路の整備方針(仮称)※」の検討状況を踏まえ、関係機関との協議調整を行っていく。

※東京都は、概ね10年間で優先的に整備すべき路線を定めた「都市計画道路の整備方針(H28～R7)」に基づき道路整備を行っており、現在、道路空間のリメイク(道路の幅員構成の見直し等)の視点を踏まえた新たな整備方針の策定(R8.3月)に向けて検討を進めている。

【パンダ橋】

パンダ橋については、これまでJRの主催で社会実験を実施してきたが、実施回数や実施期間の拡充が難しいといった課題があった。今回は、JRがパンダ橋の一部を第三者に貸し出し、その第三者が主催する形で行い、パンダ橋の新たな活用方法やポテンシャルを関係者で共有することができた。

今後は、区とJRが、今回のスキームを参考に地域の方々と意見交換しながら、日常的な活用の仕組みづくりや活用ルール、将来像の検討に取り組んでいく。

【中央通り】

中央通りについては、上野まちづくり協議会が掲げる3か年計画を踏まえ、令和5年度から協議会と区が連携して社会実験に取り組んでおり、道路空間活用に係る地域の気運醸成やまちづくり活動への多様な主体の参画促進につながっている。

今後は、3か年分の社会実験結果や地域の方々の意見をもとに、引き続き上野まちづくり協議会と連携して、将来像の具体化や道路空間活用の方向性の検討に取り組んでいくとともに、東京都の動向を注視しながら、関係機関との協議調整を行っていく。